

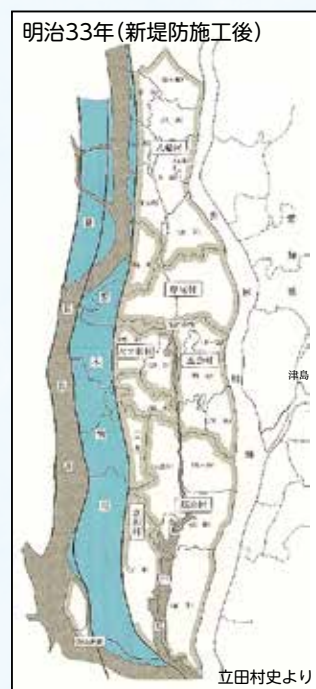
木曽三川分流工事で切り取られた立田輪中

(立田輪中悪水土地改良区)

『木曽三川分流工事』と言えば、尾張地域の小学校では教科書に必ず登場する明治時代の一大工事です。立田輪中をはじめ、高須輪中、長島輪中といった木曽三川(木曽川、長良川、揖斐川)の合流地帯にあった多くの輪中地区は、河川内の中州の周囲に堤防を作り、その中で大雨の洪水被害に悩まされつつも暮らしてきました。洪水対策として江戸幕府による改修工事が幾度か行われましたが、当時の土木技術では一定の効果しか得ることが出来ませんでした。

明治時代に入り、政府が依頼したオランダ人技師デ・レーケによって現在の堤防ラインが築かれました。この工事により、立田輪中の西側(地図の青部分)は木曽川へ沈めるために切り取られ、ここに住んでいた人々は、津島・佐屋との間を流れていた佐屋川跡に代替え地を与えられたり、故郷を出て行ったりしました。輪中住民の生命財産を守るための国家プロジェクトでしたが、願いの通りにはならなかった人々もいたのです。

こうした過去の方々のご苦労のおかげで、現在ほどの輪中地区も明治の新堤防に守られています。更に戦後には排水機場までが各地に設置され、今では地盤の低い土地も安全に暮らせるようになっています。



令和5年度 維持管理費		令和5年度 排水機場 運転状況		
水路、排水機場等 施設全体	うち光熱水費	排水機場名	運転日数	運転時間
35,187,944円	22,858,963円	たつた 立田排水機場	197日	2,089時間
		たつたわじゅう 立田輪中 第二排水機場	197日	2,010時間

※維持管理費は、令和6年3月31日現在で支出処理が確定している値のみを記載しています。

排水機場は水を吸い込む機能上たくさんのゴミが流れてきます。処分には多くの費用が掛かりますので、水路へのゴミ捨てはやめてください。